

令和元年度 “「長久手市役所の仕事」通知表” の作成（外部評価）⑪

令和元年 8 月 6 日 開催概要

開催概要	
会議等の名称	令和元年度行政評価・外部評価⑪ <b>「高齢者福祉事業」【長寿課】</b>
開催日時	令和元年 8 月 6 日（火） 午前 9 時 35 分から午前 10 時 35 分まで
開催場所	市役所北庁舎 2 階 第 5 会議室
出席者氏名 （敬称略）	<外部評価実施者> ・行政改革推進委員 石橋健一、樋口和則、細萱健一 ・外部評価委員 唐田宏樹、村上 結 <担当課> 福祉部長 川本晋司、同部次長兼長寿課長 中野智夫、同課課長補佐 粕谷庸介 <事務局> 行政課係長 加藤優作
傍聴者人数	8 人
問合せ先	長久手市総務部行政課 0561-56-0605
備考	

外部評価実施者の意見等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長生学園事業に関する実行委員会形式について、実行委員である高齢者の負担にならないように配慮されたい。</li> <li>・この事業のように行政サービスにおいては、行政サイドで公平公正さを担保する必要があると思う。市の方針として、様々なことを「市民にまかせている」が、この公平公正さの担保をどこで取るかが重要であり、そのためには分析が必要と思う。</li> <li>・「地域にやってもらいたい」、「市民にまかせる」について、丸投げではなく、行政も一緒になり課題に対応し、育んでいくようになればよいと思う。「まかせていきたい」が全面に出してしまうと、その受け皿にも限界があると思う。調整しながら取り組まされたい。</li> <li>・事業や制度の認知度が高いが、参加者数が少ない要因について、分析されたい。</li> <li>・この事業は互助でやりたいものと認識し、その成果指標として、シニアクラブの人数を増やしたいことだと推測するが、増えない要</li> </ul>
-------------	--

	<p>因を分析する必要があると思う。また、他方でシニアに限定しなくてもよいと思う。シニアクラブ以外の指標設定も考えられるとよい。それにより、今後の事業展開として、すそ野が広がるように思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多世代の活動の中にシニアの方の活動支援を組み合わせることは有効と思う。</li> <li>・「役所にお金がないから、市民にお願いする」というロジック、理屈は成り立たないと思う。そのためには、市民に財政状況、行いたい事業を説明し、理解を得ないと、「市民におしつけている」ように感じるため、安易な考えは危険である。丁寧な説明が必要である。別の事業との組み合わせも一つの方策である。</li> <li>・実行委員会や各リーダーの育成について、「人づくり」には時間が掛かる。そのためには、共感や理解が必要である。</li> <li>・評価について、はっきりしない部分（推測の域を出ないような事象）があるため、「量」と「質」の両側面から評価されるとよい。</li> <li>・「老人福祉事務事業」（B票）の改善ポイントについて、「申請などの不備」とあるが、この不備の対応をして、他の事業に影響があると本末転倒となるため、留意すること。</li> <li>・「老人福祉事務事業」という名称は再考されるとよい。</li> </ul>
--	--

<p>講評・まとめ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民と協働する際の必要性について、丁寧な説明をし、市民に納得、共感してもらうことが大事である。一過性のものでなく、丁寧な説明をし、時間を掛けて取り組んでほしい。</li> <li>・評価について、「量」だけでなく「質」（満足度）の評価を是非加えて、両面を組み合わせ行ってほしい。シニアの方々の多様な趣味や趣向が反映できるとよい。</li> </ul>
---------------	---